

奥利根ワイン株式会社 (群馬県利根郡昭和村)
金井 圭太 代表取締役



GUEST

若き経営者が挑戦を続けるワイナリー

全国商工会連合会の中小・小規模企業成長実行本部、増山としかず本部長が全国の経営者に話を聞くコーナー。第4回は、群馬県の赤城山麓でワイナリーを営む、奥利根ワインの金井圭太代表取締役に話を聞いた。

新サービスの販促などに 持続化補助金を活用

増山 金井さんは2代目ということですが、まずは創業からの経緯を教えてくださいいただけますか。

金井 弊社は平成3年、私の伯父で沼田で酒店を営んでおり、その隣に工場を建て、山梨などから仕入れたぶどうでワインづくりをしていました。その後、アメリカのカリフォルニアやオレゴンのワイナリーのように、ぶどう栽培からすべて手づくりでワインをつくりたいと考えるよう



増山 としかず

ますやま・としかず ● 全国商工会連合会 中小・小規模企業成長実行本部長。東京大学卒業後、昭和60年、通商産業省(現経済産業省)入省。中小企業政策や通商貿易政策など産業政策全般に取り組む。平成24年、北海道経済産業局長。平成26年、中小企業基盤整備機構筆頭理事

になり、平成12年に、この赤城山麓の昭和村でぶどう栽培の取り組みをスタートしたのです。それから、ぶどう畑のなかにワイナリー施設を整えて、平成16年にリニューアルオープンしました。この地域でぶどう栽培をしているのは弊社だけで、ぶどう栽培からワイン製造まで行う一貫化により、群馬県の「1社1技術」に認定されました。

現在、5ヘクタールの畑で6品種のぶどうを栽培しており、その自社ぶどう100%でつくるワインと、他地域から買い付けたぶどうを中心につくるワインを醸造しています。

増山 私は通産省時代、フランスでワインに関する仕事も担当していましたが、ワイナリー経営は、初期投資にお金がかかり、それを回収するまでに長い年月がかかるビジネスです。まして欧州ほどワイナリーに理解のない日本で成功しているのですから、御社には情熱としっかりとした将来の見通しがあったんですね。

さらに最近では、補助金も有効に使って、販促などの新しいチャレンジもされているそうですね。

金井 持続化補助金は、一昨年と昨年の2回活用しています。

最初は、経営計画策定に基づいて始めたボトルプリントサービスの販路拡大に活用しました。これは、たとえば結婚式を引き出物用に、顔写真などをラベルにプリントするサービスなのですが、補助金を使ってカタログやインターネットでの販売を始めました。

そして昨年は、ぶどう畑に散布するオゾン水をつくる機械を導入しました。オゾン水は殺菌性が強く、散布するとぶどうの木を殺菌する効果があるのです。これによって、ぶどうの生産量を上げることができ

ば、ワインの生産本数を増やすことができます。この畑の味わいをもっと多くの人たちに知ってもらいたいですね。

増山 補助金は、意欲のある人を後押しするものなので、金井さんのような人に使ってもらうと、本当に意味がありますね。そして、額の小さい持続化補助金をはじめ、さらにステップアップしたいときには、ものづくり補助金などの大型の補助金も用意されていますから、ぜひ多くの中小企業や小規模事業者に活用してほしいと思いますね。

金井 持続化補助金は上限50万円と

いう使いやすい金額がいんですよ。実は今、3回目の活用も考えています。

品質向上とブランド強化に向けて試行錯誤の日々

増山 ところでオゾン水の成果はもう出ているのでしょうか。やはり果樹栽培は、長い目で見る必要があるでしょうね。

金井 そうですね。果樹は1年に1回しか収穫できませんから、反省がすぐに活かせません。さらに、その年の天候にも大きく左右されます。そこで、できるだけ自然の影響を受

けずに、この土地ならではのやり方を確立していきたいのですが、なかなか難しい。つねに勉強中です。オゾン水の散布にしても、メリットもデメリットも見えてきましたので、今後も工夫を重ねながら使っていきたいと考えています。

増山 先代が築き上げたものをしっかり受け継ぐとともに、情熱をもって試行錯誤しながら、6次化の新しい道を示されていますね。ぜひ地域のリーダーになってほしいですね。

金井 増山さんの期待に応えたいと思います。まだまだこれからです。今後は、自社どう100%のワインでいかに差別化できるか、ブランド力の向上も課題になってきます。TPPの影響で、海外のワインとの競争は、これまで以上に厳しく

なっていますからね。

増山 まさにステップアップの次のステージですね。ぜひがんばってください。ありがとうございます。



金井 圭太

かないけいた ●平成25年、20代で先代（現会長）からバトンを引き継ぎ、オリ根ワイン株式会社の代表取締役役に就任。若手経営者ならではの情熱と感性で、新しい取り組みを続けている



1. 標高700mの赤城高原に広がる、オリ根ワインのぶどう畑 2. 畑のなかに建つ醸造施設内。レストランや売店も併設されている 3. 売店に並ぶ自慢のワイン。本格的なスパークリングワインなど、商品開発にも積極的に取り組んでいる

